

追い付かない木材供給

錦江町の総土地面積1万6千315ヘクタールに対し、森林面積は1万2千308ヘクタールと約70%を占めています。また、民有林のうち、スギ、ヒノキを主体とした人工林面積は4千964ヘクタールと全体の72%を占めています。これまでは、住宅事情の変化や木材輸入自由化などの要因により、国産材が売れない時代が長く続き、林業全体が低迷していました。しかし、ここ数年は国産の2×4材普及やCLT工法などの技術革新により、大型の木材加工施設が建設されています。さらに、中国や東南アジアへの木材輸出や木質バイオマス発電用の燃料など、木材の需要は年々高まっています。

一方で、森林の急激な伐採が日本全体で、そして錦江町でも進みつつあります。

大隅森林組合南大隅支所の川崎淳也さんは、「平成26年度の丸太の素材生産量が1万2千㎡に対して、平成30年度は2万2千㎡と2倍近く増えています。今後林業機械の普及や効率化によって、伐採は進みますが、木材需要に対して供給が追いついていないのが現状」と話します。

計画的な「山づくり」に向けて

これらの要因から、県外からも山の買い付けが増えています。「木を伐ることは山の健全化につながるいいサイクルですが、大切なことは、伐ったあとに植林すること。伐りっぱなしで放置すると、山が本来持っている「水を貯える力」が弱くなり、山地災害を引き起こす危険性が高まります」と植林の必要性を訴えます。

山の持つ多面的な機能の維持は、山主（森林所有者）だけの問題ではありません。川下で生活する人や、農業・漁業などに携わる人にも大きく影響してきます。

木を植える作業は、機械化の進んだ林業でもまだ手作業。伐採時に植林を想定して行う「地拵え（苗木を植えやすいように耕す作業）」にも手間と経費がかかります。

「組合では伐採後の植付けや、木がある程度”の大きさに育つまで、山主さんに代わって草刈りをするなどの取り組みを進めています。このような森林整備の取り組みは町内の林業事業体も同じ考えです。次の世代に山をつなぐことが自分たちの使命だと思います。山づくりは計画的に進める必要があるのです。まずは売る前に相談してほしい」と思いを込めます。

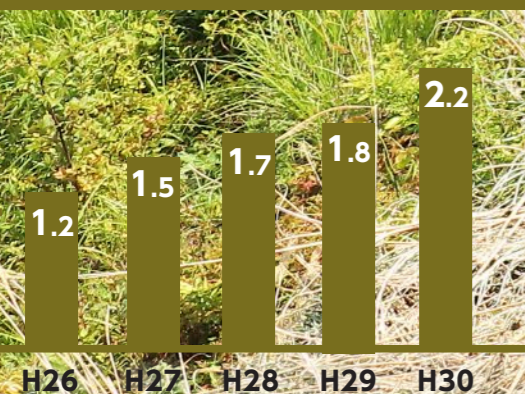


大隅森林組合 南大隅支所
業務係長 川崎 淳也 さん

木を育て、森をつくり 未来につなぐ



大隅森林組合の丸太取扱量 (万 m³)



H26 H27 H28 H29 H30

大隅森林組合 (H26 ~ H30)

鹿児島県の木材生産量推移 (万 m³)



H24 H25 H26 H27 H28 H29

平成30年度鹿児島県森林・林業統計